

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>自ら学び取り、友ともに歩む、心豊かな子どもの育成</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>心とつながりをはぐむ指導(心と指導) 主体的な学びで確かな学力をつけ、友と学ぶ喜びをもたらす指導(主体的な学びと喜び) 健康な子どもを育てる指導(楽しく体力づくり)</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>算数A・Bは全国平均、県平均の正答率よりもいずれも高い。 特に算数Bの正答率は全国平均をかなり上回っている。 算数での無解答率はかなり低い。 領域的には図形や数量関係での正答率は低くはないが、今後に向けて指導改善の必要がある。 国語Bの正答率は全国平均並みで県平均を上回っている。 国語Aでは漢字の書きと・基本的な知識の定着に課題がある。 国語に関しては算数に比べて無回答率が高い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>食事や寝起きのリズムはしっかりとれている。 平日の家庭学習の時間で2時間以上している児童の割合が低く、全体的に時間が短い。 特に、休日の家庭学習の時間が取れていない。 宿題はよくしているが、予習、復習をしている児童が少ない。 書いたり、説明したりする活動が苦手と感じている。 休日の過ごし方で家でテレビやゲームで過ごしている割合が高い。 失敗を恐れる傾向があり、そのためか苦手を積極的に克服したいと望まない傾向も見える。 自己肯定感が高くない。 人の気持ちがわかりたいとかいじめは絶対にいけないと捉えていない児童が見られる。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>算数は全体的にこれまでの少人数指導の成果が表れている。 小数の計算で小数点の付け方に混乱が見られる。 図形の定義や性質の理解に課題が見られる。 国語の力をつけることが課題である。 漢字や基本的な知識の定着を図る取り組みを実施する必要がある。 読み、書きと「話す、聞く力」に課題がある。 家庭学習で予習や復習をしている児童が少なく、家庭学習の時間も短い。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>少人数指導をより効果的に進める。 これまで続けてきている朝自習や計算グングン週間の取り組みを見直し、弱点を重点的に取り上げ、系統的なプリントを作成し、繰り返し実施する。 放課後学習サポート事業で小さな学年から将来を見据えて補充をしていく。 漢字学習を繰り返しだけでなく、漢字検定の導入や校内検定の実施などで意欲付をする。 語彙を増やすフラッシュカードの作成をする。 授業の中で基本的な知識の定着を図るように既習の用語等は正確に使わせる。 学校生活の多くの場面に意図的に言語活動を意識した活動を計画、実施する。 予習、復習を習慣化する取り組みを考える。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>小数の計算テストの実施(4～6年3学期:繰り返しプリントの問題から) 3位数の加減テストの実施(3年生3学期:繰り返しプリントの問題から) 図形に関する理解度・定着度の確認テスト(繰り返しプリントの問題から) 漢字検定協会の行事への参加(今年の漢字等) 漢字検定への親子参加(2月上旬) 図書館利用回数の拡充</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>繰り返しプリントの確認テスト80%の児童が合格 漢字検定参加率50% 90%以上の児童が週に1回以上図書館を利用する。 家庭学習時間を宿題以外に1時間以上できる児童を80%を目指す。</p>